

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます (2018年5月29日)

■第1版 第1刷 (2017年5月10日発行) の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章					
20	図1A		より一般的な記載への変更	17/12/19	
20	図1Bプリンの基本骨格			プリミジンと逆になっていました 7から8への腕が1本足りていませんでした	17/12/19
20	図1Bピリミジンの基本骨格			プリンと逆になっていました	17/12/19
27	図1下段の右端		赤枠内の様に、染色体の組合せを「父方」と「母方」に修正	17/06/23	

第2章																																					
67	本文右段「家系図」の11行目	流産および死産は	流産は	17/06/23																																	
80	図1説明文	117-1130	1117-1130	17/06/23																																	
87	図1	<p>15q11-q13 正常 父方 母方</p> <p>PWS 欠失 父方欠失 ~70% UPD 母方 ~30% インプリンティング異常 ~2%</p> <p>AS 母方欠失 ~70% 父方 ~5% 遺伝子変異 ~10%</p> <p>15q11-q13 父方アレルの機能不全</p> <p>15q11-q13 母方アレルの機能不全</p>		赤枠内の様に、アレルの状態を正確に表現する様に修正	17/06/23																																
107	ページ最下部の2行目	連鎖 (linkage)	連鎖 (sequence)	17/06/23																																	
114	表4の「網膜芽細胞腫」の行	RB	RB1	17/06/23																																	
第3章																																					
119	表1の「ガイドライン」の行(2箇所)	全10学会	前10学会	17/06/23																																	
139	表2の「転座」の行	46,XY,t(5;18)(p15.1;q21.2)	46,XY,t(5;18)(p15.1;q21.2)	中央のスペースを詰める	17/06/23																																
163	表2の「血液疾患関連遺伝子検査」の行	bcr-ab/mRNA	bcr-abl mRNA	17/06/23																																	
163	表2の脚注の文献	…: 日本遺伝カウンセリング学会誌, 34: …	…: 日本遺伝カウンセリング学会誌, 37: …	18/05/29																																	
第4章																																					
178	表1	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">果(効き方)の違い</th> <th colspan="2">副作用の違い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ン</td> <td>セツキシマブ</td> <td>イリノテカン</td> <td>カルバマゼピン</td> </tr> <tr> <td>症</td> <td>大腸がん</td> <td>がん</td> <td>てんかん</td> </tr> <tr> <td>ORC1</td> <td>KRAS</td> <td>UGT1A1</td> <td>HLA-B*1502^{*1} HLA-A*3101^{*2}</td> </tr> <tr> <td>胞</td> <td>体細胞</td> <td>生殖細胞</td> <td>生殖細胞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2009.7</td> <td>2005.8</td> <td>2007.12^{*1} 2013.3^{*2}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2010.3</td> <td>2008.6</td> <td>2008.4^{*1} 2011.9^{*2}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保険適用 2010.4</td> <td>保険適用 2008.11</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		果(効き方)の違い		副作用の違い		ン	セツキシマブ	イリノテカン	カルバマゼピン	症	大腸がん	がん	てんかん	ORC1	KRAS	UGT1A1	HLA-B*1502 ^{*1} HLA-A*3101 ^{*2}	胞	体細胞	生殖細胞	生殖細胞	8	2009.7	2005.8	2007.12 ^{*1} 2013.3 ^{*2}		2010.3	2008.6	2008.4 ^{*1} 2011.9 ^{*2}		保険適用 2010.4	保険適用 2008.11	-	日本人のアレル頻度は、HLA-B*1502(※1)は0.071-0.120、HLA-A*3101(※2)は0.001とされている(2011年11月現在)	17/06/23
果(効き方)の違い		副作用の違い																																			
ン	セツキシマブ	イリノテカン	カルバマゼピン																																		
症	大腸がん	がん	てんかん																																		
ORC1	KRAS	UGT1A1	HLA-B*1502 ^{*1} HLA-A*3101 ^{*2}																																		
胞	体細胞	生殖細胞	生殖細胞																																		
8	2009.7	2005.8	2007.12 ^{*1} 2013.3 ^{*2}																																		
	2010.3	2008.6	2008.4 ^{*1} 2011.9 ^{*2}																																		
	保険適用 2010.4	保険適用 2008.11	-																																		
187	図1内「分割図」の「複合確率」の行	P(A)P(B NA)	P(NA)P(B NA)	17/06/23																																	
216	ページ最下部の1行目	min or allele frequency	minor allele frequency	17/06/23																																	